

Classic Column MK3

Passive Version

取扱説明書



目次



本機の特徴.....	2
スタート.....	3
設置に関する重要事項.....	3
スパイクの使い方.....	3
接続の仕方.....	4
スピーカーの設置状態.....	5
ルームアコースティックス.....	5
一般的アドバイス.....	5
トワイターの高さを耳に合わせる.....	6
ステレオ三角形.....	6
サラウンド設置位.....	6
故障かな?と思ったら.....	7
メンテナンス.....	8
仕様.....	9
問い合わせ先.....	10

本機の特徴



ADAM スピーカーは最高度の再生能力とオーディオ製品としての質の高さを求めた、優れたスピーカーと自負しております。Column MK3 では、非常に細やかで且つ音楽的に優れた再生表現能力と解像度を備え持った、たぐいまれなスピーカーであり、ドイツ製品としての質の高さを証明するスピーカーでもあります。

Classic Column MK3は、パッシブスピーカーシステムで、新しく開発した X-ART トウィーター、X-ART ミッドレンジドライバーを搭載し、ヘキサコーンウーファー 2 機との適合性も完璧で、現在入手可能なほとんどの機器とも完全にマッチするスピーカーに仕上がりました。

この説明書は ADAM Column MK3 を存分にお使いいただくために作成しました。重要な情報、安全性、セットアップ、取り扱い、などの説明をいたします。どうぞこのマニュアルをお読みくださり、ADAM Column MK-3 の性能を存分に引き出してください。

ADAM スピーカーについて、技術的な内容、世界中のユーザーやスタジオについてはウェブサイトをご覧ください。 www.adam-audio.com

皆様が ADAM スピーカーをご堪能いただけますことをこころより願っております。

設置に関して



設置に関する重要事項

スピーカーを箱から取り出した後、約1時間ほど室内環境に慣らすよう、放置してください。

接続には高品質のスピーカーケーブルをご使用になることをお勧めします。スピーカー自体が堅固なフロアに設置することが大切です。

梱包材料は輸送のためにはたいへん重要な働きをしますので、将来の移動を考えますと、お手元に保管していただくのがベストです。

スピーカーシステムは「ブレイクイン期間」という慣らし運転時間が必要なことをご承知置き下さい。私たちの経験では、100時間ほど演奏すると、良い状態になりました。

スパイクの使い方

1. スピーカーを注意深く寝かせます。ドライバー面を上にするか、又は横にして、スパイクがはめやすい状態にします。キャビネットが傷つかないように、ソフトな毛布などを下に敷いて寝かせてください。
2. スピーカー台座にあるスパイク用にネジが切ってある穴にスパイクを装着します。合計4箇所、4本のネジが切ってあるスパイク（付属）を装着します。
3. 4本すべてを最後までネジが切ってある台座の穴にねじ込みます。その後スピーカーを使用状態と同じように、経たせます。キャビネットががたつくようでしたら、フロアに接地していないスパイクを調整して、4本とも完全に接地するように調整をします。それには接地していないスパイクを緩めていってスパイクが完全に4本とも接地するようにします。スパイク高を調整するには付属の六角レンチを使用します。

* スパイクはエネルギーをフロアに伝えないので、有効なアクセサリーです。



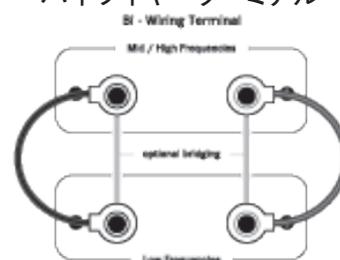
スパイクが完全にねじ込まれた状態に、又はナットの頭部が完全に固定されていることをご確認の上、高さ調整を行います。



接続の仕方

1. スピーカーをオーディオ機器と接続する前に、オーディオ機器が完全にオフになっていて、コントロールアンプなどのボリュームが半時計方向に回しきった状態にあることを確認します。安全のためです。
2. バイワイヤーターミナルがスピーカー背面に装備されています。アンプなどに接続するには次の三通りの方法があります。
 - 一番簡単な方法は上下ターミナルをジャンパーケーブルで結び、どちらか一方のターミナルとアンプを接続する方法です。(右記をご参照→)
 - バイワイヤー接続はスピーカーの再生能力を高めます。そのためには上下を結ぶジャンパーを外します。各ターミナルとアンプを接続します。バイワイヤー使用になっていないケーブルをご使用になるばあいには、2ペアのスピーカーケーブルが必要です。
 - バイアンプによる駆動も可能です。中高域のスピーカーターミナルと中高域用のアンプを、また、低域用のスピーカーターミナルと低域用のアンプとを接続します。アンプにはプリアンプ、又はDACなどから、同じ信号が届かなくてはなりません。出力端子が片チャンネルに2つ以上のプリアンプなどが必要となります。
3. ボリュームレベルが低く絞ってあることが事故を防ぐために大切です。接続が終わった時点で、装置をオンにします。音楽を演奏し、ボリュームを最適レベルになるよう調整します。

バイワイヤーターミナル



スピーカーの設置状態



スピーカーの設置はそのパフォーマンスを最高度に引き出す上でとても重要です。そのためアドバイスを以下に記します。しつないおんきょうについて、も触れてみます。リスニングルームは個別に異なり、全く同じ部屋はないと言えますが、一般的なアドバイスを参考にいただければ幸いです。

ルームアコースティックス

室内音響については以下の点に集約されます。

- a) 残響：室内における音は、残響の結果による場合があります。例えば、どの波が反射するのかです。カーペット、カーテン、ソファなどのソフトな家具は音を、特に高域の音波を吸収する傾向があります。石やガラスなどの硬い材質は音波のほとんどを反射します。一般的に言って、反射するような部屋は伝統的な音楽再生について言えば、非常に多くの反射が発生するのでたいへん問題が多いと言えますでしょう。
- b) 寸法：リスニングルームの全体容積についても、重要な要素です。同じスピーカーでもサイズが異なる部屋に置くと、全く違うスピーカーとなり得るのです。従って、部屋のサイズが部分的ではありますが、スピーカーの位置を決めることになります。
- c) 距離：リスナーと音源との距離も、スピーカー位置決定においては、三番目に大切な要素です。もしリスナーとスピーカーの距離が離れすぎている、もしくは近すぎる、と云う状況では妥協した結果にならざるを得ません。

一般的アドバイス

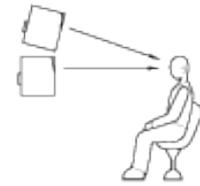
- 基本的にはスピーカーとリスナーの間には何も置かないことです。スピーカー全体がリスニングポジションから見えなければいけません。
- 壁面から最低は40cmは離してスピーカーを設置し、リスニングポジションもそうしましょう。一次反射など、初期反射をできるだけ防ぐためです。初期反射は音質に非常に悪い影響を与えます。
- スピーカーはリスナーに向けてトウイン（中心に向けて内振りにする）するように設置します。これも一次反射の害を防ぐ方法の一つです。
- 共振するようなものによって音が混濁しますので注意してください。例えば、CDのケースなどを整理しただけでもクリーンな音になります。

スピーカーの設置状態



トゥイーターの高さを耳に合わせる

トゥイーターの位置は大体座ったときのリスナーの耳の高さに合わせます。スピーカーが直接リスナーに向かって放射するようにならないければ、音楽情報を失うことになります。



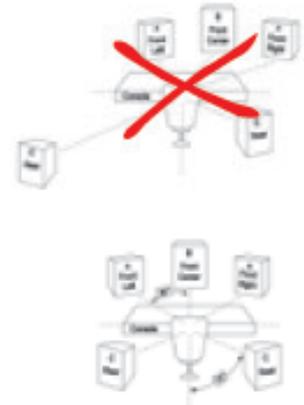
ステレオ三角形

チャンネルステレオ再生ではリスナーはスピーカー感を底辺とした二等辺三角形の頂点で聴くようにします。スピーカーはリスナーに向けてトゥインさせて放射します。



サラウンド設置位

理想的なサラウンド設置については、スピーカーを 0° (センター)、 30° (フロント、右 ch)、 110° (リア、右)、 250° (リア、左)、 330° (フロント、左 ch) と言う配置です。リスナーはこのサークルの中心に位置します。半径は大体 0.7-2.0m です。これは、ITU の推薦する設置位置です。但し、ルームサイズ、などによって変わってきます。ただ、この状態を広げてお試しになることから始めると良いでしょう。同じようにスピーカーから近接の壁面までは最低 40cm は取りましょう。



故障かな？と思ったら



ADAM スピーカーは高品質スピーカーで、クラフツマンシップも優れたものですが、もし不具合がある場合には以下の方法で確かめてください。

問題：音が歪む、又は全く音がしない

両チャンネルが共同様な不具合（音が歪む、音がでない）であれば一般的に信号経路に原因がある場合が多いです。もし、ほかの部分が問題なければ、スピーカーの問題ということになります。

- a) 接続をチェックする。ケーブルは正しく接続されているか、ケーブル自体に問題はないか。
- b) 信号経路をチェック；左右のケーブルを交換してみる。片方の問題がこれによって解決されるかどうか。
- c) どちらでもない場合には、スピーカーに問題があるかもしれません。もし、このどちらかであれば、スピーカー以外の問題です。

メンテナンス



- 振動板に磁力のあるものを近づけないように。
- キャビネット内に液状のものが入り込まないようにしてください。いかなるスプレーも吹きかけないように。クリーニングには濡れた布は厳禁です。
- クリーニングに発火性、酸性の洗浄剤を使用しないこと。
- スピーカー振動板に手を触れないように。
- クリーニングはリントフリー（毛羽立たない柔らかい布）クロスをしめらせてそっと拭き取るように。スピーカー振動板はソフトなブラシで埃を払うことができますが、そっとぬぐうように行ってください。

仕様



形式	3ウェイ・フロアスタンディング型バスレス方式
仕様ユニット〈高域〉	X-ART〈エックスアート〉トウイーター×1
速度変換比率	4 : 1
仕様ユニット〈中域〉	X-ART〈エックスアート〉ミッドレンジドライバー×1
速度変換比率	3.5 : 1
仕様ユニット〈低域〉	190mm口径ヘキサ・コーン型ウーファー×2
周波数特性	33Hz-50kHz
クロスオーバー周波数	150/800/2800Hz
出力音圧バレル	>90dB/W/m
インピーダンス	4Ω
入力端子	バイワイヤリング方式バナナプラグ対応
重量	32kg
外形寸法	1205(H) × 230(W) × 300(D)
キャビネット仕上げ	グロッシーブラック(ピアノブラック)、ウォルナット 又はチェリー

問い合わせ先



株式会社太陽インターナショナル

〒103-0027

東京都中央区日本橋 2-12-9 日本橋グレイスビル 1F

TEL :03-6225-2777 (代表)

03-6225-2779 (サービス課)

FAX : 03-6225-2778

ホームページ : <http://www.taiyo-international.com>